

「福岡第二工場」完成稼働

生産の自動化、研究開発など強化

丸東産業

丸東産業（福岡県小郡市、☎0942・7



稼働を始めた福岡第二工場の外観（写真右の建物）

3・3626）はかねて建設を進めていた「福岡第二工場」が竣工し稼働を開始した。経営環境の変化に対応し、生産能力拡大、生産の自動化など随所に最新鋭の加工設備、システムを導入して、軟包装製造における省人省力化の新たなモデルになると関係業界から注目されている。

同社は昨年1月、「福岡第二工場の新設」について建設計画を発表していたが、今年3月に完成し、予定通り5月に稼働を始めた。敷地面積2951平方メートル、延床面積6110平方メートルの規模。投資総額は研究開発、生産設備などを含め、約30億円となっている。同社では、今回の福岡第二工場新設について「お客様のパッケージに対するさまざまなニーズにお応えし、経営環境の変化に対応するため」として、大きく3点の目的を明示。製品の生産量を増加するための「生産能力拡大」、生産の自動化による省力化、R&Dセンターの創設による「研究開発の強化」と

している。とりわけ自動化による省力化の取り組みとして軟包材の最終工程となる製袋機に連動する前取り作業についても無人化を指向した自動化設備を導入しており、バンド掛け、定数毎の箱詰め作業も自動で行えるように独自設備を導入している。

印刷関連装置についても生産効率改善のため、水性インクジェットプリンターを新規導入。併せて、太陽光発電設備や、営業車などの社用車をEV化するとともにEV充電スポットを設置し、脱炭素社会に向けた取り組みにも力を注いでいる。同社は、国内で広く認知されるプラスチックフィルムコンパクターとして、これまで社内ですべて「掴めるくん」「吸湿くん」に代表されるような「機能包材」と呼ばれる独自の特長ある包装製品を数多く提案している。製造販売する複合フィルムは食品や医薬品、日用品、トイレタリーなど、幅広い分野で採用実績が増加。企業の信頼性も高く、堅調に出荷量を伸ばしている。